

いつもあなたに近い存在でいたい
そう願い続けてきたフレスコは
ますます便利に、安心に、快適に
かけがえないスーパーとしてあり続けます

Fresco

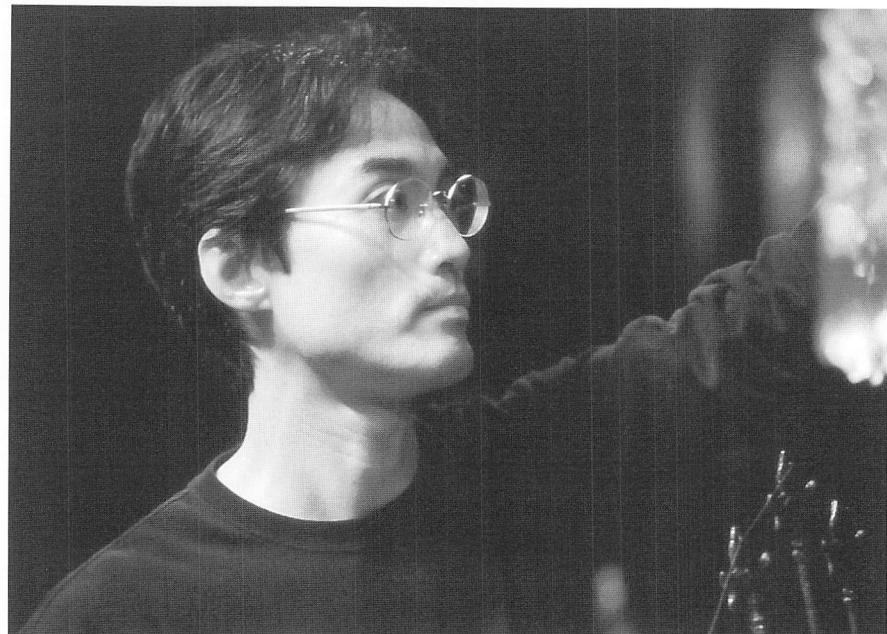
Renewal

- 勤修店** 京都市山科区勤修寺西栗柄野町225番地
- 丹波橋店** 京都市伏見区東大字町1063番地
- 北花山店** 京都市山科区北花山横田町10番地3
- 生鮮店** 京都市伏見区醍醐下山口町22番地2
- ZEZE店** 大津市丸の内町8-24
- 四ノ宮店** 大津市横木1丁目11-3
- 東寺店** 京都市南区西九条比永城町36-1
- 木幡店** 宇治市木幡南端10
- 向島店** 京都市伏見区向島庚申町119
- 三条店** 京都市中京区壬生朱雀町1番地2
- 四条店** 京都市中京区西洞院四条上ル蟻蟻山町481
- 石山店** 大津市栄町2-5
- 五条店** 京都市下京区五条通高倉西入万寿町150
- 帷子ノ辻店** 京都市右京区太秦帷子ノ辻町30-3番地
- 西大路店** 京都市中京区西ノ京下合町27

New

桜原店 京都市西京区川島調子町39

<http://www.fresco.com>



舞台監督 木村聰 Kimura Satoshi

KYOTIAN I.D.

キヨーティアンアイディ

生身の人間が創り、観る 舞台の醍醐味に魅せられて



舞台装飾の中でも主役と呼びたいのが、中央のシャンデリアとエンジェル像。どちらも毎日舞台まで降ろし、入念な点検は怠らない



『オペラ座の怪人』は、一ヵ所に注目していると別の場所でストーリーが展開したり、劇中劇も多かったりと回転ただけじゃわからないずいぶん作品ですね（笑）

Information

「オペラ座の怪人」京都公演
京都劇場にて公演中
<http://www.shiki.gr.jp/>

‘02年1月1日、「オペラ座の怪人」京都公演の幕が上がった。難しいのでは?と言われてきた京都公演だったが、蓋を開けてみれば予想を上回る盛況ぶり。来年1月までのロングラン公演も決定した。その舞台監督を務めるのが木村聰氏だ。

小さい頃から身体を動かすのが好きだったが、二十歳の頃、怪我をきっかけに共に成長してきたスポーツから距離を置くことになる。次なる精神的支柱を探すべく暗中模索していた時に、ふと目にしたのがミュージカルの舞台。それは生身の人間が目の前で感じるパワーの凄さを見せつけてくれた。「映画も凄く好きだけれど、結局観る時にはフィルムでしかないでしょ。ところが舞台には人間がいる。そこからエネルギーが伝わってきたんです」。それから立て続けにミュージカルを観た。当時も今も変わらず、日本におけるミュージカルの先駆者である劇団四季の舞台も多かった。そんな数年間を過ごしたことがやがて、ミュージカルの近くで仕事をしたい=四季で働くことを考える。とは言え舞台に関しての経験は全くない。「営業でも何でもよかったです。ミュージカルの側にいるためにとりあえず四季に入りたい、と」。想いは叶った。配属は舞台監督部。演出に興味はあったものの、聞くも見るも初めてのことだからからのスタートを切り、5、6年を経て舞台監督というポジションに就く。

この聞き慣れたようで、わかりづらいのが舞台監督という仕事。大道具や照明など裏方の作業と俳優の段取りの双方を調整しつつ、舞台進行を管理する潤滑油的な存在であり、その舞台の公演に関しての責任が全てその肩に掛かるというポジションもある。しかし重責よりも「お客様にとってはたった1回の舞台。それを忘れないで、モチベーションを保ち続けることが最も大切」と言う。華やかな舞台の裏で、それを作り上げるのは日々のルーチン・ワーク。ロングランになればなるほど回数は増え、クオリティを保ち続けることが容易でないことは、想像に難くない。ではその源は?「お客様の姿は見えなくても、カーテンコールの拍手と共に客席の空気が伝わってきますし、アンケートに『生きる勇気をありがとう』と書いてくれた老夫婦もいました。そんな空気や言葉を感じたり聞いたりすると、そのためにやっているのかなあって」。演じる側、観る側がお互いにそのパワーや思いをぶつけ合う場、それが劇場であり、その場を支える柱として、日々現場に立つ木村氏。その現場を見遣る視線の先には、単に継続や伝承だけでなく刷新の思いも込められている。後生へオリジナリティは守りつつ、技術や手法などは最良のコンディションで伝える。その積み重ねこそが、舞台をかけがえのないものへと導くのだと気付かせてくれる視線が、そこにある。